

# 旭川の体育の実践

中学校部会研究部長 旭川市立六合中学校 五十嵐 敬  
2018.12.14

## 1 旭川支部の研究について

### 旭川支部研究主題

「自ら求め、積極的にかかわる体育活動」  
～わかる・できる・のびる体育学習を目指して～

#### 【研究仮説】

指導内容やかかわらせ方を工夫することにより、基礎となる運動技能を身につけたり、体力を高めたりするとともに、自ら運動を求め、積極的にかかわろうとする態度を育てることができる。

研究の視点1～指導内容の工夫	研究の視点2～かかわり合いの工夫
① 実態を踏まえた指導計画の作成 ② 目標の明確化，焦点化 ③ 場づくり，教材・教具の工夫	① 教師と子どものかかわり合い ② 子ども同士のかかわり合い<重点> ③ 子どもと運動とのかかわり

## 2 平成30年度旭川市教育研究大会

(1)期 日 平成30年10月17日(火)

(2)授業公開

旭川市立新富小学校 郡 健二郎 教諭 第4学年 ゴール型ゲーム グリッドサッカー  
旭川市立東陽中学校 新美 雅孝 教諭 第1学年 球技 ゴール型 バスケットボール

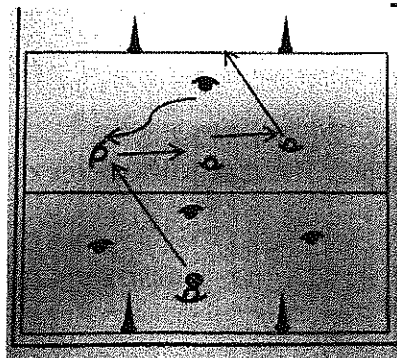
## 3 各授業の内容・考察

(1)グリッドサッカー

①単元について

体を動かすことが好きな児童が多い一方、嫌いな児童は「ドリブルやパスが苦手」「ルールがよくわからない」「一部の人が強いボールを蹴って一人でする」など、技能面やルール面を理由に楽しさを感じることができない生徒がいた。ボールを止める、蹴るなどの技能が身につけている生徒がほとんどいなく、ボールが転がる先まで動いたり、パスをもらえる場所に移動したりできる生徒が少ないという実態があった。このことから、プレイエリアを制限することで、児童の触球回数が増え、協力してゴールを目指すグリッドサッカーをメインの活動として位置づけた。

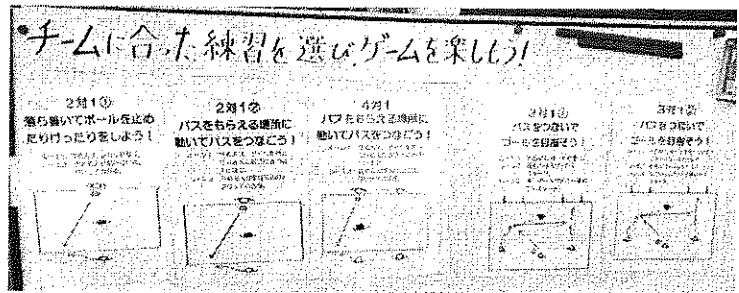
### グリッドサッカー・メインゲーム4対4



- ①横長のコートにし、中央で2つのグリッドに分ける。
- ②常に攻撃側が数的有利になりゴールを目指しやすくなる。
- ③サイドラインから出たらキックインで再開。
- ④ゴールが入ったら中央から再開。
- ⑤守備者が奪ったら、反対コートの味形へパスをつなぐ。
- ⑥ボールを奪われたら、攻守がすぐに切り替わる。

## ②本時の展開（6/8）

【チームの実態に合う練習を選択する】  
→【練習を生かしてゲームを行う】という流れで活動を行い、練習内容は前時までの授業で行ったものから選択する形とした。ボールを止める・蹴る→パスをもらえる場所動いてパスをつなぐ→パスをつないでゴールを目指すという段階的な練習の流れを児童が理解し、練習を生かしてゲームを行うことができていた。



各チームが選択する練習の例

## ③考察

実態に合った単元計画、本時の展開となっていた。一方、グリッドサッカーからサッカーへ繋げるにあたり、空間を広く使いながらパスをつないでディフェンスを引き付けてゴールを目指すための指導の工夫について考える必要がある。

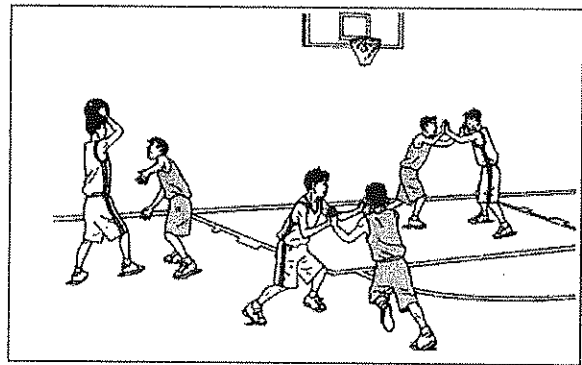
## (2) バスケットボール

### ①単元について

ドリブルやパス、シュートなどは小学校の既習事項であることから、オフェンスとディフェンスが対峙し、かかわり合いながら攻防のかけひきを楽しむところを重点としておさえた。

### ②本時の展開（4/10）

ディフェンスは自分のマークマンにしっかりとつくこと、オフェンスは、ディフェンスを振り切りつつカッティングし、シュートにつながるように空間に走り込む動きを意識させるために、ボールマン以外の生徒は手を合わせる3on3をメインの活動とした。



手合わせ3on3

ルールは、ドリブルを使わない、シュートは1回のみでオフェンスは終了とすることとし、1分間オフェンスをした後、攻守交代をする流れとした、それにより、連続してオフェンスを行うことができるため、ボールマンもオフボールマンも様々な試みを行うことができた。また、試しの手合わせ3on3を行った後、よりよく攻めるためのポイントについて話し合う場面を設け、それを確認の手合わせ3on3に生かすこととした。

### ③考察

手合わせをすることにより、ディフェンスが自分のマークマンにしっかりとつく意識が高まり、それに伴って、オフェンスが空間に走り込むにあたって必要な、【①速いスピードで空間に走り込む、②フェイントをかける、③押し込んで逆に動く、④ボールがほしい時に声をかける】といったことをより意識するようになった。スピーディーな展開の3on3ができ、パスが繋がったときやシュートに行くことができたときの喜びがより高まっていた。それにより、より一層生徒同士のかかわり合いが深いものとなっていた。一方、手合わせではないディフェンスにした時の、オフボールマンの動き方について、スクリーンなどを効果的につかって攻めるためのポイントをわかりやすく指導できるよう考える必要がある。